

Title	アートベース社会学の実践史(ABR実践活動アーカイブ)
Sub Title	Archives of ABR practices
Author	Keio ABR
Publisher	三田哲學會
Publication year	2017
Jtitle	哲學 No.138 (2017. 3) ,p.251- 281
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集：アートベース社会学へ#寄稿論文
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000138-0251

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

アートベース社会学の実践史 (ABR 実践活動アーカイブ)

Keio ABR*

Archives of ABR Practices

Keio ABR

設立趣旨

下記の目的を実現するために、その賛同者による互助協働組織として当研究会を設立する。名称は慶應義塾大学アートベース・リサーチ (Keio ABR) とする。Arbeitsgemeinschaft ABR/Actiongroup ABR (設立日時 2015年11月3日・文化の日, 2017年1月1日改称)

目的

(科学) 言語のみによる研究活動では観察, 把握, 理解, 伝達しえない生の有り様を探求するために、多様なアートワーク実践を研究活動の主軸に据え、従来の人文社会科学では実現されなかった知や経験そしてその学びや公開の新たな仕組みを開拓, 展開することを目的とする。

* Keio ABR (港区三田 2-15-45 慶應義塾大学岡原研究室内
homoaffectus@gmail.com)
<http://artsbasedresearch.jimdo.com>

I. 研究会設立後に実践された諸活動は以下のとおりである
(2017年3月現在).

講演会, ワークショップ主催共催

- 11/17 「フォト・エスノグラフィーの可能性と課題——文化の「担い手になる／である」ことからの模索」ケイン樹里安 (大阪市立大学)
16:30-18:00 457 文学部井本研究会主催 三田哲学会共催
- 12/03 「パフォーマンス社会学への誘い」霜田誠二 (アーティスト)・岡原正幸 16:30-19:00 日吉来往舎二階大会議室慶應義塾大学教養研究センター教育メソッド開発のための実験授業支援制度
- 12/10 「パフォーマンスアートとジェンダー: ワークショップ」北山聖子 (アーティスト)・濱田ミリ (アーティスト) 12:00-14:30 457 三田哲学会共催
- 12/19 「パフォーマティブターン以後の認識実践」岡原正幸 日本演劇学会比較西洋演劇研究例会 13:30-17:30 成城大学
- 01/14 「パフォーマンスアートと社会学」社会学特殊IX受講者, 霜田誠二, 濱田ミリ, 岡原正幸他によるパフォーマンス, 11:45-15:30 ノグチルーム
- 02/09 「他者の生 (ライフ) を受け止める「聞きなぞり」の手法—高齢者のライフストーリーを演じ継ぐ／記憶を生き直す—」石野由香里 (早稲田大学) 14:30-17:00 ノグチルーム
- 05/26 「感情を生かす社会, 殺す社会」岡原正幸 全日本ピアノ指導者協会 19:00-20:30
- 06/19 「ギフトエコノミーの可能性」熊倉敬聡 14:00-15:30 223 三田哲学会共催
- 07/26 『『温故知新, 青春から学ぶ。』—被爆者✕ジブリ✕慶應—』
長田孜 (画商, 長崎原爆被爆者, 塾員) 鈴木敏夫 (スタジオ・ジブリ代表取締役社長・プロデューサー 塾員) David J. Freedman (慶應

- 義塾大学環境情報学部教授) 三田哲学会共催 北館会議室
13:30-17:30
- 10/13「私たちの表現とダンス Embodiment の視点から」橋本有子(お茶
ノ水女子大) 12:30-14:30 457 三田哲学会共催
- 10/15「メディアのウラをかくわざ 映像をアートする」岡原正幸, 香月
浩一(FBS福岡)対談 文学部公開講座 14:30-16:60 南校舎ホール
- 10/29「津久井やまゆり園殺傷事件について考える」NPO ノアール+
ABR 研究会共同企画 14:00-17:00 Loft9(渋谷) 神奈川新聞連載特
集(時代の正体) 2016/11/25, 26, 27
- 11/17-20「Homo Viator」映像企画, 「K-dom ver.2」teamOka 三田祭展
示
- 11/24「パフォーマンスアートとは」Joydeb-Roaja 霜田誠二 社会学特
殊IX 11:30-14:30 457
- 11/29「Artist Presentation by Sonia Hedstrand RBA or ABR」Sonia
Hedstrand 14:00-15:30 223 三田哲学会共催
- 01/19/2017「パフォーマンスアートと社会学」社会学特殊IX受講者, 霜田
誠二, 岡原正幸他によるパフォーマンス, 10:30-14:30 ノグチルーム
- 01/29/2017「パフォーマンスアートと ABR」社会学特殊IX受講者,
Gonzalo Rabanal, Nguyễn Quốc Thành, Sauganga Darshandhari 12:30-
15:30 ノグチルーム 三田哲学会共催

著書

- 『〈被爆者〉になる——変容する〈わたし〉のライフストーリー・インタ
ビュー』高山真 せりか書房 2016
- 出版企画 ブックレットシリーズとして ABR 実践やその理論的論考を定
期的に刊行する.
- 翻訳企画 海外の ABR に関する著作の日本語訳を刊行する.

雑誌論文

「アートベース・リサーチ——社会学としての位置づけ——」『三田社会学』21 65-79 岡原正幸・高山真・澤田唯人・土屋大輔 2016/07

「アートベース・リサーチ——なぞる／癒す／パフォーマンス——」『法学研究』90-1 (有末賢教授退職記念号) 岡原正幸 2017/03

「クロス・オーラル・ヒストリーズ——四国遍路の歴史共同体をとらえるために」(大会報告要旨)『三田社会学』21 144-147 後藤一樹 2016/07

『哲学 特集アートベース社会学へ』三田哲学会 2017/03

「アートベース社会学へ」岡原正幸

「他者の生を《なぞる》ための、今ここの《なぞらえ》の世界——アートベース・リサーチという社会学のかたち——」澤田唯人

「ライフストーリーとオートエスノグラフィ」高山真

「ABR 作品のつくりかた レプリカ交響曲《広島平和記念公園 8月6日》(2015)」土屋大輔

「〈祈り〉の映像社会学——広島平和記念公園における原爆死没者追悼のポリフォニーとドラマトゥルギー」後藤一樹

「市原レポート いちはらアート×ミックスへ向けた取り組み」坪井聡志

「《10の小品・牛久——きおくうた》(いちはらアート×ミックス 2017 作品提案書)」後藤一樹・坪井聡志・高山真・プルサコワありな・岡原正幸

「フェミニスト ABR というパフォーマティブな共働——その系譜と展開——」中村香住

「アートベース・リサーチ——上演と身体 (演劇・パフォーマンスによるアートベース社会学)——」岡原正幸

「アートベース社会学の実践史 (ABR 実践活動アーカイブ)」ABR 研究会

図録

「隙間だらけの時代の寛容さ，そのシンボルとしての植木等」

『植木等と昭和の時代』三重県総合博物館企画展（2017/01-03） 展示パネル・カタログ寄稿 岡原正幸

学会活動（口頭発表，作品展示）

07/02-03 カルチュラル・タイフーン 2016（東京芸術大学）

Panel

「ライフストーリー・インタビューの経験を表現すること」高山真

「ヒロシマ8月6日のビジュアル・エスノグラフィー—相互行為としての祈り」後藤一樹・小倉康嗣・福山啓子・加藤旭人

Project Works

「レプリカ交響曲（シンフォニー）《広島平和記念公園8月6日》2015」
土屋大輔・NPO サーヴェイ

「Can You Feel IT: Sound Sociology of Hate Speech」プルサコワあり
な・巴健太郎・福原慶一・岡原正幸

10/08 日本社会学会大会（九州大学）

「アートと社会学の新たな接点 アートベース・リサーチの可能性と実践」
テーマセッションの開設 コーディネーター 岡原正幸

「中国現代アートにおける問題の定式化と解決の方法 文革終了から市場解放期（1970-1990年代）に着目して」陳海茵（東京大学）

「体験を《なぞる》，世界を《なぞらえる》「他者理解」をめぐる交差するアートと社会学」澤田唯人（慶應義塾大学）

「日常生活における婦人の手芸活動と社会との関わり 神戸市兵庫区，長田区を対象として」山下香（流通科学大学）

「記録の「穴」からみえる社会風景 世田谷・地域映像アーカイブにお

けるエリシテーションの試み」松本篤（東京大学） プルサコワあり
な（慶應義塾大学） 後藤範章（日本大学）

「踊る身体」にみるビジュアル調査法の可能性」ケイン樹里安（大阪市
立大学）

「四国遍路の映像社会学 移動する巡礼者と地域住民の動的関係イメー
ジ」 後藤一樹（慶應義塾大学）

「生きられる経験としてのアートベース・リサーチアートパフォーマン
ス『黒い雨』（2015年7月19日広島公演）の事例から」湯浅正恵（広
島市立大学）+清水章代（パフォーマー）

11/30/2016 「四国遍路 50 日間の移動と対話の映像民族誌」, 平成 28 年度
みんぱく若手研究者奨励セミナー『人類学的営みにおける映像』, 国立
民族学博物館, 後藤一樹

[http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/youngseminar/
wakate_seminar2016](http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/youngseminar/wakate_seminar2016)

03/04. 05/2017 「レプリカ交響曲」土屋大輔（一橋大学）

『岐路に立つグローバリゼーションと歴史実践』

03/07/2017 「Arts-Based Sociology」岡原正幸（パネリスト）ウィーン大
学・慶應義塾大学合同シンポジウム 『New Directions in Empirical
Human Studies』

06/03/2017 日本演劇学会大会（慶應義塾大学）

「演劇と教養 アートベース・リサーチと演劇」シンポジウム企画運営

06/24/2017 カルチュラルタイフーン（早稲田大学）

「牛久—きおくうた」(パフォーマンス・映像) ブース発表予定

07/01/2017 三田社会学会シンポジウム「生存者(サバイバー)の社会学」高山真(パネリスト)

11/04/2017 日本社会学会大会(東京大学)
「ABR」テーマセッション企画予定

2017 アートミーツケア学会(京都市立芸大)
ABRとケアをテーマに共同報告予定

Keio ABR Festival 2017の企画, 運営

慶應SKC計画(慶應義塾創立150年記念未来先導基金公募プログラム)の立案, 運営 2017年度

<http://skckeio.jimdo.com>

公募アートプロジェクトへのプロポーザル

「10の小品—牛久 きおくうた—」ICHIHARA ART × MIX 2017 公募展
プロポーザル 後藤一樹・坪井聡志・高山真・プルサコワありな・岡原
正幸・河崎純 2016/05

サウンド・インスタレーション 南オーストラリア大学とのコラボレーション

「IDENTITY VS NOISE: 1Dⁿ A sound installation by Lloyd Cole」
Nexus Arts (Adelaide), TAV Gallery (Asagaya), Long Room Hub
(Trinity College Dublin), The Museum of Finnish Architecture

(Helsinki) 01/25-02/03 2017

Keio ABR TAV シリーズ「サイトスペシフィックと社会学」

01/25~02/03 TAV ギャラリー (杉並区阿佐ヶ谷)

「Alternative Sound Performance」坪井聡志・河崎純 01/27

「パフォーマンスのオートエスノグラフィ」レクチャーパフォーマンス
岡原正幸 01/31

「現金味 Cash Taste」パフォーマンス Marius Escande・Natsuo
Kawakita 02/01

「Memories in Ushiku」「The Relation Image of the Shikoku Pilgrimage」
映画上映 後藤一樹 02/02

「展示・慶應義塾大学文学部岡原研究会」上演 岡原ゼミ 02/03

「フェミニズムとアートベース・リサーチ」レクチャー 中村香住
02/03

映像エスノグラフィ

『四国遍路 50 日間の移動と対話の記録』DVD 版, 監督・撮影・編集: 後
藤一樹, 2016/10

パフォーマンスアート実践

「Private Room」パフォーマンス・デュオ作品 岡原正幸・坪井聡志 ニ
パゲン (日本パフォーマンスアートの現代) 3331 Arts Chiyoda
2016/05/30

「Encounter +/- Confusion」岡原正幸 ニバフアジア 3331 Arts Chiyoda
2016/07/28

応用演劇ワークショップ

「暮らしのクロニクル」慶典院（大阪市）における地域住民とのワークショップ 2018/01/06～08

「親子で対話の可能性を開く～演劇ワークショップを用いたコミュニケーショントレーニング」七沢希望の丘初等学校 岡原正幸・荻野亮一 2017/02/04

舞台公演 制作・出演

『終わりはずも終わらないうちに終わっていく』河崎純 音楽詩劇公演プロジェクト [ロシア・アルメニア公演] (作・演出: 河崎純, 制作・出演: 坪井聡志, 2016/10, 国際交流基金, アーツカウンシル東京助成事業)

『Ayumi Paul Violin concert and Sound performance』河崎純・シアターX 提携公演 (シアターX, 作曲・演出: 河崎純, 制作: 坪井聡志, 2016)

教育研究実践 (ABR 実践ワークショップ形式の授業)

『社会学 (専門)』慶應義塾大学通信教育課程文学部設置専門科目

夏季スクーリング 2016/08/19-08/24 岡原正幸・澤田唯人 2017～

週末スクーリング 2016/09/17, 18, 24, 25 10/01, 02 岡原正幸・高山真 2017～

『アートやデザインで社会にかかわる学問 アートベース・リサーチの多様性』

夜間スクーリング 総合講座 2017年

岡原正幸

後藤一樹

坂倉杏介 (東京都市大学)

長津結一郎（九州大学）

山田崇（塩尻市役所）

直井玲子（松山東雲女子大）

『感情社会学』文学部専門科目 2016-

『生の社会学』文学部専門科目 2016-

『社会学特殊Ⅸ』文学部専門科目 2016-

『映像社会学』文学部専門科目 岡原正幸・後藤一樹 2017-

『社会学演習・社会学特論』大学院社会学研究科 2016-

Ⅱ． ABR 実践にかかわるメンバー活動歴（研究会設立以前）

A 岡原正幸

【ABR に関わる著作・口頭発表群】

著書

『感情的行為の構造～感情・行為・カタルシス』修士号請求論文 慶應義塾大学社会学研究科 1983

「家族と感情の自伝～喘息児としての私」『ファミリーズの再発見』（井上真理子・大村英昭編 世界思想社 1995）

『ホモ・アフェクトス～感情社会的に自己表現する』世界思想社 1998

「感じたことを素直に出そう」『アートユニバーシアード 菜の花里美発見展』（北川フラム監修）124-125 現代企画室 2003

「work-shopping@waseda-karada」『文化の実践，文化の研究』（伊藤淳編）167 せりか書房 2004

『黒板とワイン～もう一つの学びの場〈三田の家〉』（熊倉敬聡，望月良一，長田進，坂倉善介，手塚千鶴子，武山政直との共著）慶應義塾大学出版会 2010

- 「感情に触れる」『希望の社会学』（山岸健ほか編著）三和書籍 2013
- 「パフォーマティブ社会学宣言」『NIPAF 13 カタログ』ニパフ 2013
- 『感情資本主義に生まれて～感情と身体の新たな地平を模索して』慶應義塾大学出版会 2013
- 『感情を生きる～パフォーマティブ社会学へ』編著 慶應義塾大学出版会 2014
- 「Masayuki Okahara/team Oka」Contemporary Performance Almanac 2015 Caden Manson/Jemma Nelson (eds.) 222-23 2015

雑誌ほか

- 「モスクワ芸術座主催・プレヒト演出による社会学」『三色旗』11月号 22-25 1989
- 企画、序文「特集、社会を〈アート〉する～建築とデザイン」『三色旗』1月号 2 慶應義塾大学通信教育部 2005
- 「感情の共同体から感情の公共性へ」『三色旗』1月号 12-17 慶應義塾大学通信教育部 2005
- 「感情Tシャツワークショップ～「社会学」をアートする」『三色旗』1月号 18-21 慶應義塾大学通信教育部 2005
- 企画、序文「特集、身体知の冒険」『三色旗』8月号 2 慶應義塾大学通信教育部 2006
- 「感情・身体知・パフォーマンス」『三色旗』8月号 22-24 慶應義塾大学通信教育部 2006
- 「ホモ・アフェクト的転回～感情社会学における、構築されるものさされるもの、を越えて」『三田社会学』第13号 17-34 2008
- 「フィールドワークの現在～世界をキャンパスにする」（シンポジウム記録集）教育GPキックオフセミナー報告書 日吉教養研究センター 2011
- 「お手を触れないでください～現代社会と感覚」『視×触』ブックレッ

- ト 19号 8-23 慶應義塾大学アートセンター 2011
- 「ビジュアル調査法と社会的想像力」書評 『社会と調査』 11号
50 2013
- 「生きられる経験／当事者／当事者性」 『三田社会学』 19号 企画編集
1-2 2014
- 「パフォーマンスシンドロームの中の調査実践」書評 『三田社会学』
19号 123-26 2014
- 「パフォーマンスな現実の中で～ライブー元論」 『ARTLET』 44号 慶
應義塾大学アートセンター 2015
- 《墨田真澄》名で記事執筆
- 「あなたはどのタイプ～ドラマ主人公から見る性格占い」 『JJ』 光文社
1992
- 「あなたはどんなタイプの男子が好き～男性主人公からみる行動パタン」
『JJ』 光文社 1993

口頭発表・講演

- 「感情 T シャツの行方一知・感情・ワークショップ」 2003 年度日本現象
学・社会科学大会シンポジウム（京都女子大学） 2003/12/07
- 「感情社会学における〈構築性〉について」 第 22 回 三田社会学大会シン
ポジウム（慶應義塾大学） 2007/07/14
- 「映画『おそいひと』 公開記念シンポジウム 障害者と自立」（パネリス
ト） 東中野ポレポレ主催 2007/12/03
- 「『三田の家』と『うたの住む家』：あるエイブルアートの試み」（共同報告
熊倉敬聡・岡原正幸・坂倉杏介） 2007 年度アートミーツケア学会大会
（横浜バンクアート） 2007/12/08
- 「大学地域連携シンポジウム」（企画，パネリスト） 三田の家 LLP（東館
G-SEC Lab） 2008/12/18-20

- 「障害とか性と性とか」(分科会 B 企画, 司会) 2009 年度アートミーツケア学会大会 (東館 G-SEC Lab) 2009/12/05
- 「フィールドワークの現在—世界をキャンパスにする」(パネリスト) 教育 GP キックオフセミナーシンポジウム (来往舎) 2010/03/02
- 「映像と性」(パネリスト) NPO ノワール主催シンポジウム (新宿ロフトプラスワン) 2010/12/16
- 「映像とエロス」(パネリスト) NPO ノワール主催シンポジウム (新宿ロフトプラスワン) 2011/12/03
- 「契約」展 (パネリスト) 渋谷西武ギャラリー 2012/02/05
- 「表現としての社会学」『臨床するアート』連続講演 エイブルアート (3331Arts Chiyoda) 2012/12/20
- 「ビジュアルな方法, パフォーマティブな方法」 日本大学文学部後藤範章ゼミ+岡原ゼミ オルタナティブ社会学会 三田の家 2013/10/13

【ABR イベント・公演・企画・研究教育活動】

- 「ネットワーク CI のプロデュース」1992 年度慶應義塾大学学部生, 卒業生を中心にした, アクションプログラム 1992~1994 共同運営
- 「通り過ぎて, とどまって passed, stayed」越後妻有アートトリエンナーレ 2000 応募作品プラン 1999
- 「アートユニバーシアード 菜の花里美発見展 (アートフロントギャラリー, 都市整備公団, 千葉県) 岡原研究会として招聘され, 約半年間, 千葉県内でアートワークショップ実施 2002/04~09
- 「妻有夢花火 みんなの思い打ち上げます」大地の芸術祭 越後妻有トリエンナーレ 2006 応募作品プラン 井口琢磨との共作 2003
- 「work-shopping@waseda-karada」第 1 回カルチュラルタイフーン (早稲田大学) パフォーマンスとアートワークショップ 2003/06
- 「this/able/workshop@disability/studies/shizuoka」第 1 回障害学会大会

- (静岡県立大学) アートワークショップ実施 2004/06
- 「ヒヨシエイジ」「日吉フェスタ」(慶應大学日吉キャンパス) 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2012年 大学と地域連携の枠組みで, 第二回ヒヨシエイジ以降毎回参加, キャンパスおよび日吉台小学校で アートワークショップ実施
- 「超表象デジタル研究」慶應義塾大学教養研究センター学術フロンティア 共同研究者 2006/01~2008/03 (インターキャンパスとしてアート空間)
- 「三田の家」(芝5丁目)の開設と共同運営 2006/04~2013/12, 三田の家 LLP 設立, 「芝の家」活動拠点
- 「三田の家」: 21世紀的學生街の創出に向けて」慶應義塾創立150年記念 未来先導基金採択プログラム 企画運営者 2008~2013
- 「mita/no/ie@send/aida」第6回カルチュラルタイフーン(せんだいメディアテーク) アートワークショップ実施 2008/06/28, 29
- 「芝地区昭和の地域力再発見事業」(芝3丁目「芝の家」開設と運営 港区 および 三田の家 LLP) 2008/09~ (港区と慶應義塾との連携に関する包括協定, 10/04に調印)
- NPO ノアール主催コンテスト映像部門共催及び審査員 2009 (障害学とアート)
- 「身体知教育を通して行う教養言語力育成~慶應義塾「語力」開発のモデル提示と実施~」大学教育 GP 慶應義塾大学教養研究センター 共同研究員 2009~2011 (アートによる身体と大学教育)
- アートミーツケア学会大会運営委員 2009/04~12 (アート, 障害, ケアの関連)
- ミュージックビデオ出演「Fuck Off MC Oka」2009
- 映画出演「Love & Trash」「ある家族の風景」「パーフェクトボーイ」他 2005~

グループ・パフォーマンスとビデオ「身体詩, 跳べ, 障害とセクシュアリ
ティ」カルチュラルタイフーン 2011 神戸大会「Kizuna&Kusari」「神戸
港にて, 静かな波風は, どこまでその波形を保てるのか」「心顔」「融
合」「make」「Y」「ツメを切る」「araiguma」「みんなで喰おう共産主義」
「文句があるなら俺に言え」2011/07/23, 24

グループ・パフォーマンス「身体詩 BoDy (be or die) Poltics/Poetics」
カルチュラルタイフーン 2012 広島大会「night/day」「野菜の儀式」
「2003 へのオマージュ」「白い奴らがやってくる」2012/07/14,15

光州ビエンナーレ 会場にてゼミメンバーでゲリラパフォーマンス
2012/09/20

釜山ビエンナーレ 会場にてゼミメンバーでゲリラパフォーマンス
2012/09/22

三田社会学会大会シンポジウム「生きられる経験／当事者／当事者性」企
画 2013/07/06

シンポジウム次第

2013年7月6日 14:30~17:30 南校舎 455 司会 岡原正幸(慶應義塾大学)
発表者

- 1 熊谷晋一郎(小児科医 東京大学特任講師)綾屋紗月(東京大学特任研
究員) 共同報告「生き延びるための研究」「当事者研究の背景と理論」
(担当熊谷), 「実践「塊魂(かたまりだまし)」と向き合う~『社会性
の障害』を問い直す当事者研究」(担当綾屋)
- 2 宮下阿子(法政大学大学院社会学研究科博士課程)「当事者と他者のあい
だで~(摂食障害)の生きられた経験へ」
- 3 澤田唯人(慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程, 日本学術振興会)
「“臨床現象学”は社会学に何をもたらすか~構築主義のあとで(生きられ
た経験)を問うこと」

コメンテーター

好井裕明(日本大学), 小倉康嗣(立教大学)

Finnegans Wake オルタナティブ社会学会 企画および実施 三田の家 2013/10/11-13

三日間のプログラムは以下のとおり

Day1

18:30- Kick off Party (三田の家)

フード: Rainbow Burritos ドリンク: CAFÉ ★ LAVANDERÍA コーナー／
シーシャ部 (Daizo Riotbeer ほか)

クロストーク《人が集うこと、インフォショップの可能性》

出演: 成田圭祐 (IRA), 山下陽光 (途中でやめる), 上田憲太郎 (気流舎), はら
だゆきこ (多摩住民), 原田淳子 (路地と人), CAFÉ ★ LAVANDERÍA,
模索舎, 岡原正幸 (三田の家)

MC: 川邊雄 (RLL)・二木信 (音楽ライター)・後藤吉彦 (専修大学)

Day2

随時／ガレージ, 公道, キャンパスなど

くにたち0円の会 presents 《0円ショップ》くにたち0円の会 (ほしのめぐみ,
鶴見済, ほか)

9:30-10:45 《パフォーマティブ社会学》DVD 報告 岡原正幸 (慶應義塾大学),
映画「生の技法」teamOka

10:45-12:00 《学知のなかの表現, 表現という参与》NPO サーベイ 映像上映
+フリートーク

岩館豊 (一橋大学), 青木深 (一橋大学), 稲津秀樹 (関西学院大学), 松尾浩一
郎 (帝京大学), 小倉康嗣 (立教大学)

12:00-13:00 《セックスにまつわるお仕事からのオノマトペ》(パフォーマンス
とお話) カウパー団 (宮階真紀, 堀内航, vovo bravo)

13:00-15:00 Vaccurs (バックーズ): 電撃障害者商品企画会議@三田の家

15:00-18:00 《水商売ワーカーがみた「性」と「恋愛」》

三橋順子 (明治大学) 「女装系スナックの恋愛と性の構造的特質」

中田梓音 (総合研究大学院大学文化科学研究科) 「スナックママの恋愛リスク
マネジメント」

松田さおり (宇都宮共和大学) 「銀座ホステスたちの『シスターフード』」

鹿野由行（大阪大学大学院）「出会い系テクノロジーがゲイコミュニティに与えた影響」

川畑智子（北海道大学）「恋愛の商品化と性の自己管理—ホステスワークを振り返る」

16:00-18:00 《アブノーマライゼーション（障害と性風俗）》

山本翔（はんどめいど倶楽部オーナー）

阿闍世（特定非営利活動法人ノアール理事）

熊篠慶彦（特定非営利活動法人ノアール理事長）

18:45-19:00 ・NORA BRIGADE “Radical Marchingband Tokyo”

・革命のためのダンスワークショップ（The Dance Workshop for a Revolution）

19:00-19:30 かりん燈関東一万人の所得保障を目指す介助者の会

《オッカー？みんな～！介助者にだって言いたいことがある》

19:30-21:30 クロストーク《だめ連 再考／採光／再興》

MC 後藤，川邊

出演：神長恒一・ベベ長谷川，ほか

night session 气流舎フード班（カオスフード）

Day3

9:00-10:30 《anything goes》アドホック企画，当日持ち込み企画あり，あなたの企画で三田の家に華を！

10:30-12:00 《ビジュアルな方法，パフォーマンスな方法》

後藤範章（日本大学），岡原正幸（慶應義塾大学）二つのゼミ共同企画

13:00-16:00 《君はあまちゃん？なんてたってアイドルって何？》

塚田修一（東京都市大学）「女性アイドル“ファン”の歴史社会学」

星野貴彦（プレジデント社）「『アイドルビジネス』の現在」

SS（慶應義塾大学大学院）「女性アイドルの女性ファン」

高艸賢（東京大学文学部）「声優アイドルをめぐるコミュニケーション」

松田聡平（東進ハイスクール数学講師）「アイドルと数学」

16:00-17:30 《エッチなお姉さんのリレーションシップ》（全米セックスワー

カー会議報告，社会的資源としてのセックスワーカーの価値）水嶋かおりん

18:30-21:30 《三田の家葬送～自律的空間の技法》

井本由紀（慶應義塾大学）・堀口左知子（テンプレ大学），岡原正幸ほか三田

アートベース社会学の実践史

の家マスター、スタッフ

Sayonara Party 気流舎フード班 (カオスフード)

パフォーマンス「生の技法」「私へ～喘息児として」『ニパゲン (パフォーマンスアートの現代)』明大前キドアイラックホール 2012/06/20, 21

パフォーマンス「Ars Vivendi」『ニパフ (日本パフォーマンスアートフェスティバル) 2013』3331Arts Chiyoda 2013/06/25

パフォーマンス「私へ2」『風の音が聞こえない』(グループ展) 三田の家 2013/07/13

パフォーマンス「alternatives」『ニパゲン』明大前キドアイラックホール 2013/12/09

「慶應義塾 SKC (信州小諸キャンパス) プロジェクト」 2015-

パフォーマンス「書く, 記録する」社会学特殊9 公開発表会 ノグチルーム 2016/01/14

パフォーマンス「alternatives」『ニパフ 2016』3331ArtsChiyoda 2016/03/02

パフォーマンス「むすぶ」『ニパフ 2016』長野市 2016/03/09

パフォーマンス「出会いと迷い」『ニパフアジア 2016』3331ArtsChiyoda 2016/07/28

「慶應 SKC (Super Knowledge Campus) 計画」慶應義塾創立 150 年記念 未来先導基金採択プログラム 企画責任者 2017-

【ABR 実践を内容にした担当授業】

『社会学研究会』文学部専門科目 (アートワーク, プロジェクト, 映画, 三田の家など ABR ベースのゼミ活動 teamOka として発表, 下記参照) 2002-

『現代社会論』文学部専門科目 (アート表現による報告実践, 映画製作) 2002-2010)

- 『感情社会学』 文学部専門科目（感情をテーマに朗読劇上演）2011-2015
- 『映像社会学』 文学部専門科目（社会学的主題で映像作品制作）2011-2015
- 『生の社会学』 文学部専門科目（ライブイベントの聞き取りを演劇表現）2011-2015
- 『社会学特殊IX』 文学部専門科目（パフォーマンスアート実践）霜田誠二氏と共担 2015-
- 『社会学（専門）：生と感情の社会学』 通信教育課程文学部専門スクーリング科目（ライフストーリーの聞き取りと演劇作品化）小倉康嗣と共同担当 2011-2014
- 『感性・文化・人間』 大妻女子大学人間関係学部（映像作品制作）2007-2009
- 『映像と演劇の世界』 大妻女子大学人間関係学部（映像作品制作）2010-2013

B 後藤一樹

【映像作品】

- 映像エスノグラフィー『四国遍路 50 日間の移動と対話の記録』DVD 版，監督・撮影・編集：後藤，2016.
- ドキュメンタリー番組『BS 歴史観 “至宝” の外交史 (2) 「バンダ 中国最強の交渉カード」』NHK BS プレミアム，取材：後藤，2011 年 6 月 17 日放送.
- ドキュメンタリー番組『いのちドラマチック 「ニューファンランド 命を救うスーパーボディ」』NHK BS プレミアム，取材：後藤，2011 年 9 月 14 日放送.
- ドキュメンタリー番組『証言記録 兵士たちの戦争「台湾先住民 “高砂族” の戦争」』NHK BS プレミアム，取材：後藤，2012 年 3 月 4 日放送.
- フィクション映画『微熱探偵ガンジー』阿佐ヶ谷ロフト A 「許されざる映画祭～映像と音楽の生々しい関係～夜の部」，監督・脚本：後藤，2009 年 6 月 27 日上映.

【詩】

- 「無題——The polyphony of the anonymities」『ユリイカ』2003年11月号, 小池昌代選「今月の作品」, 青土社, 228-230, 2003.
- 「或る放蕩息子の帰還」河野聡子編『ジャックとジル』首都大学東京, 瀬尾育生・福間健二主催自主講座「詩を読む・詩を書く」記念作品集, 24-35, 2006.

【論文】

- 「〈趣味〉と〈闘争〉——1920-30年代のアマチュア映画の公共性」『人間と社会の探究: 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』第78号, 109-137, 2014.
- 「漂泊のライフストーリー——ある歩き遍路の戦後史と私」『日本オーラル・ヒストリー研究』第11号, 147-171, 2015.

C 高山真

【著書】

- 『〈被爆者〉になる——変容する〈わたし〉のライフストーリー・インタビュー』(せりか書房, 2016)

【論文】

- 『『長崎』をめぐる記憶の回路——「企業と原爆」調査の検討を中心に』『被爆者調査を読む ヒロシマ・ナガサキの継承』(慶應義塾大学出版会, 2013)
- 「原爆の記憶を継承する——長崎における『語り部』運動から」『過去を忘れない——語り継ぐ経験の社会学』(せりか書房, 2008)

D 坪井聡志

【制作・出演】

『終わりはいつも終わらないうちに終わっていく』河崎純 音楽詩劇公演
プロジェクト [ロシア・アルメニア公演] (作・演出: 河崎純, 制作:
坪井, 2016年10月公演, 国際交流基金, アーツカウンシル東京助成事
業)

『Ayumi Paul Violin concert and Sound performance』河崎純・シアター
X 提携公演 (シアター X, 作曲・演出: 河崎純, 制作・出演: 坪井,
2016)

『捨て子たち星たち』シアター X 音楽詩劇研究所 (シアター X, 作・演出:
河崎純, 制作・出演: 坪井, 2015)

『捨て子たち星たち (再演)』シアター X 音楽詩劇研究所 (シアター X,
作・演出: 河崎純, 制作・出演: 坪井, 2015)

『終わりはいつも終わらないうちに終わっていく』シアター X 音楽詩劇研
究所 (シアター X, 作・演出: 河崎純, 制作・出演: 坪井, 2015)

『西遊記2』響きプロジェクトショーケース 2015 vol. 3 (タタミスタジオ,
作・演出: 河崎純, 出演: 坪井, 2015)

『西遊記一Tenjik Tenjik』響きプロジェクトショーケース 2014 vol. 1 (タ
タミスタジオ, 作・演出: 河崎純, 出演: 坪井, 2014)

E 土屋大輔

【インスタレーション】

『僕たちが、70年前の同級生に会いに行くためのアーカイブ』(2014, 作
品群, プロデューサー: 土屋大輔、制作太平洋戦争クリエイティブ・
アーカイブス)

『僕は近々、死ぬ予定』(2014, 映像作品, 監督・脚本 土屋大輔)

『ぼくたちの丘の上』(2015, インスタレーション, 制作: 神代忠男/土屋

大輔／神原幹生)

『あなをほる』(2015, 映像作品・インスタレーション, 土屋大輔)

『レプリカ交響曲《広島平和記念公園 8月6日》(2015)』(2016, インスタレーション, 指揮: 土屋大輔, 制作: 広島ビジュアルエスノグラフィー研究会)

【映像】

『生の技法』(2013, 映像作品, 監督・脚本: 土屋大輔, 制作 teamOka13)

『emozon』(2013 出演)

『麻雀をする人々』(2013 撮影, 出演)

『西くんのライフストーリー』(2014 脚本, 監督)

【ゲーム】(未発表)

『餓鬼 GAKi』(2013-未完成)

『Aufm』(2015-未完成)

【小説】

『ゆめのせかいを』(2013)

『ぼくたちは、70年前の同級生に会いに行く(仮)』

F プルサコワありな

【映像作品】

ドキュメンタリー作品『おいしい器——芸術に出会えるまち・下高井戸』
(日本大学文理学部社会学科後藤範章研究室制作, 2013)

【プロジェクト】

『世田谷8ミリフィルム・アーカイブ・プロジェクト』(公益財団法人せた

- がや文化財団生活工房, NPO 法人・記録と表現とメディアのための組織, 日本大学文理学部社会学科後藤範章研究室, 2015年より継続中)
- 『“写真で語る:「東京」の社会学”プロジェクト』(日本大学文理学部社会学科後藤範章研究室, 2014-2015)
- 『wanna live TOGETHER——その旗は私たちの誇り』(2015)
- 『日本橋に福德を芽吹かせる神社——後景としての三井 vs. 三菱の街づくり』(2014)

G 中村香住 (レロ)

【イベント・ワークショップ】(全てレロ名義)

パフナイト「ようこそ, まめたのパフタヌーン~最新学生事情~」

(2007/12/5, パフスペース)

<https://youtu.be/cCvCDZL0tVU>

日英 LGBT ユースエクステンジプロジェクト (コーディネーター: 国際基督教大学ジェンダー研究センター/英国ブリストル市役所ユースアンドプレイサービス) 公開イベント「LGBT ユースと仲間たちの希望宣言」ユースワークショップカミングアウト部会 ファシリテーター・報告者

(2008/8/24, 国立オリンピック記念青少年総合センター)

<https://youtu.be/e1Gw5Zzcw0I>

「やっぱ愛ダホ!」2010 新宿街頭アクション

(2010/5/16, JR 新宿駅東南口) <https://youtu.be/cFzb7ixuK3I>

【市民・NPO がつくる男女共同参画事業】セクシュアル・マイノリティとカミングアウト【全3回】~学校で, 職場で, 皆どうしていますか?~ 第1回「セクシュアル・マイノリティが社会に出るまで—学校/大学, 就職活動で」話題提供者

(2011/11/3, アートフォーラムあざみ野 (男女共同参画センター横浜

北) セミナールーム1・2)

2012年度パフスクール オープニング座談会「ご隠居さんの昔話」沢部
ひとみ (パフスクール代表)×伏見憲明 (作家・評論家)×レロ (学
生・21歳)
(2012/6/23, パフスペース)

【メディア出演】

NHK教育テレビ「ハートをつなごう」LGBT第1弾 レロとして自宅イ
ンタビューを受ける・スタジオでコメント (2008/10/2)

【映像】

「ハートをつなごう学校」ハートをつなぐメッセージ レロ

<http://heartschool.jp/message/archives/112>

6♥ Princess by Takashi Murakami for Shu Uemura

Motion Capture Dancer (Otagei Performer) として出演

<https://youtu.be/aoTP5Aig-wU>

恋するフォーチュンクッキー PLANETS Ver./AKB48 [公式]

「AKB研究会のみなさん」として出演

<https://youtu.be/wA52CM0h5zI>

【書籍】

NHK「ハートをつなごう」制作班監修 (2010)『NHK「ハートをつなご
う」LGBT BOOK』太田出版.

STORY_7 学生生活, 楽しんでる?

H 澤田唯人

【論文】

「腫れものとして身体 『境界性パーソナリティ障害』における感情的行為の意味」『社会学評論』246

「隠喩的対話という技法 『語り得なさ』をめぐる当事者実践の社会学」『三田社会学』19

I 堀口裕三

【企業 PR 動画】

「キラリなでしこ 未来図鑑編」2015

「キラリなでしこ ファッションが変わる編」2016

III. アートベース実践の活動歴（文学部岡原研究会=teamOka）

teamOka 活動（活動内容を以下の省略記号で示す）

AP art project/art workshop

CD community design/socially engaged arts

S space installation

F image/movie/film

P performance

L lecture

E event

2017

慶應 SKC 計画（Keio Super Knowledge Campus 慶應義塾創立 150 年記念
未来先導基金公募プログラム） AP, CD, S, F, P

Keio ABR Festival 2017

2016

慶應義塾大学 SKC (信州小諸キャンパス)「Ambient×Komoro」「こもろび 2」 AP, CD

K-dom ver.2 慶應コンドーム企画 AP, CD

Homo Viator 企画 AP, F

2015

慶應義塾大学 SKC「あなをほる」「おえかきハンモック」「こもろび」
「komorobook」他 CD, AP

モックドキュメンタリー制作 2作 京都 F

「立体音響空間」サウンド・インスタレーション (三田祭) S

2014 (岡原がハンプルク大学パフォーマンススタディーズセンターで在外研究)

「太平洋戦争クリエイティブ・アーカイブズ『僕たちの丘の上』」(その後
修士入学後に土屋大輔が継続し 11/14/2015 に義塾の戦没者追悼イベントにあわせて展開) AP

2013

映画『生の技法』(『生の技法』映像化実践) F

Finnegans Wake オルタナティブ社会学会 三田の家 AP, S, E

2012

霜田誠二パフォーマンスアートワークショップ 三田の家 P

望月六郎 (映画監督, 劇団 dogadoga+代表) 講演会 三田の家 L

カルチュラルタイフーン広島 グループ・パフォーマンス公演『身体詩』 P

韓国二大国際美術展 (光州, 釜山ビエンナーレ) でのグループ・パフォー

マンスアート公演 P

橋本有子 身体表現ワークショップ P

「レシートドレス」アートワークショップ HIYOSHI FESTA AP, P

霜田誠二ワークショップ三田の家 P

代々木公園童謡遊びの会 P

「三田秘宝館」三田の家 CD, E

2011

霜田誠二パフォーマンスアートワークショップ 三田の家 (KO 大学芸術学部オープン会議) P

松尾浩一郎講演会「映像社会学の可能性」三田の家 L

カルチュラルタイフーン神戸 グループ・パフォーマンスアート上演 P

「感情喫茶」ヒヨシエイジ AP

小泉明朗ビデオアートワークショップ三田の家 L

三田キャンパスプロレス AP

ロフトプラスワン イベント「パフォーマンスと映像」 E

パフォーマンスアート, アジアニパフからのゲスト(クリシティアンワ
ン, コラート, チトウ三名)三田の家 P

2010

コミックスの実写化映画製作 3作 水戸合宿 F

「三田に笑顔を」プロジェクト, 「三田芋虫」「三田足湯」三田キャンパス AP

日本文理学院高等部ワークショップ「古着配布」 AP

佐々木誠(映像作家)映像ワークショップ+中嶋昭仁(日本ビクター) L

久野聡紀(WEB デザイナー)講演会 三田の家 L

テレビ朝日 V ドリーム応募映像の制作 5作 F

ロフトプラスワン イベント ゼミ製作映画上演 F, E

アートベース社会学の実践史

現代社会論コラボ企画（映画製作） 3作 F

「渋谷集団示威運動」 渋谷駅前 E

2009

tenga CF の制作 5作 F

『地位と羞恥』（ネッケル著 法政大学出版局）の映像化4作品 F

「身体障害者と性 NPO ノアール主催コンテスト」の共同制作運営 E

四ノ宮浩（映画監督）講演、『忘れられた子供たち』上映会三田の家 L, F

Aaron Kerner（サンフランシスコ大映画学科准教授）講演会三田の家 L, F

佐々木誠（映像作家）講演会 三田の家 L, F

日本文理学院高等部ワークショップ「自我像 WS」 AP

ヒヨシエイジ（感情Tシャツ, 感情キャップ） AP

卒業制作展08 原宿デザインフェスタ AP

アートミーツケア学会分科会B「障害とセックス」の企画製作 E

2008

「mita/no/ie@send/aida」（カルチュラルタイフーン仙台） AP

ヒヨシエイジ（感情アートワークショップ） AP

「frugiya/frugicafe」三田の家 AP, CD

ドキュメンタリー映画講演会（ゲスト梅若ソラヤ・ドキュメンタリー作家）三田の家 L, F

大学地域連携シンポジウム ゼミブース E, CD

「HENTAI ロールプレイカフェ」（三田祭） E

「みたでかんたーびれ vol3」三田の家 CD, E

2007

三田の家（慶應義塾創立150年未来先導基金 -2013） CD, S

- 「みたでかたーびれ vol1, 2 」三田の家コンサート CD, E
ヒヨシエイジ (感情アートワークショップ) AP
常識への挑戦シリーズ映像 (「電車卵」「たいやき」「雅彦」) 3作 F
「感情喫茶 バー／ツンデレ」(三田祭) E
ロフトプラスワン 「幸せのカタチ beside you」(ゲスト池田純) E
「だって私も女の子だモン」(ourplanetTV 企画賞, カルチュラルタイフーン名古屋, シネマタイフーン上映) F
三田の家団扇 (三田納涼カーニバル) E

2006

- 三田の家改装ワークショップ／三田の家オープン CD
「涼感団扇 cool feeling folding fan」(カルチュラルタイフーン下北沢) AP
ロフトプラスワン 「オムコレ (オムツ・コレクション) 2006」(ゲスト柏倉義子) E
ヒヨシエイジ (感情アート, 日吉台小学校) AP
「感情しりとり」(三田祭) AP

2005

- 「antiCM」三田校舎 AP
ロフトプラスワン 「恋のバリアフリー大作戦」(ゲスト茂木健一郎, キャシー天野) E
ヒヨシエイジ (感情アート, 日吉台小学校) CD, AP
「笑顔交換プロジェクト」(三田納涼カーニバル他) CD, AP
「感情箱」(三田オープンキャンパス, 早稲田祭展示) AP
「zeitgeistLos」(オムニバス映画) F

2004

「Another Side of The Story」(劇映画) F

「Project s/Ex」(ドキュメンタリー映画) F

セックスボランティア講演会(三田 ゲスト河合香織, 熊篠慶彦) L

shooting on safer sex contest (K-dom が優秀賞 ourplanetTV)

ロフトプラスワンイベント「ペロリンピック」(ゲスト河合香織, 渡辺一史) E

ヒヨシエイジ(感情Tシャツワークショップ) AP

「this/able/workshop@disability/studies/shizuOka」(障害学会 静岡県立
大) AP

2003

「渋谷川水プロジェクト」(渋谷区)(プロポーザル採用) CD, AP

「work-shopping@waseda-karada」(カルチュラルタイムーン早稲田) AP, P

「K-dom プロジェクト」(コンドームのパッケージをデザイン, 性的少数
者, 感染症をテーマにする) E HIV 研究講演会(東大医科学研・村上未
知子, 都立駒込病院・有馬美奈) L

ヒヨシエイジ立ち上げ(ゼミ生である井口君による日吉キャンパスを舞台
にした地域と大学の連携イベントの企画実現) CD, E

2002

菜の花里美発見展アートユニバーシアード(千葉県) CD, AP

インスタレーション「覗き」(三田祭) AP

【岡原正幸社会学研究会】

2001年より研究会(慶應義塾大学文学部社会学専攻設置専門科目)の
募集及びシラバスには下記の文章が掲載され, ABR 実践を念頭にしてゼ
ミメンバーを集めてきた歴史があり, 卒業論文・卒業制作として, 小説,

アートプロジェクト、インスタレーション、パフォーマンス、映像・映画、アートブック、ウェブサイト、ゲームなどの卒業作品が提出されてきた。

社会学をすること、それも一つの「表現」です。「近代社会」にあっては、「表現」と「科学」を切断すること（少なくともそのように思い込むこと、あるいはそのようなポーズを取ること）が、定石でした。しかし、「人間」なるものを発見し、それを「対象」にしてきた人間諸科学は、ここ数十年で致命的な欠陥を露呈することになりました。そのことを自己吟味して、新たな模索を実験的に試みようとするのが、僕のゼミの目論見です。

僕の関心、そのキィ・ワードを無理にあげるとすれば、〈感情〉〈記憶〉〈物語〉〈不平等〉〈差別〉〈渾沌〉〈反理性〉〈身体〉〈言語〉〈革命〉〈セクシュアリティ〉といったところでしょうか。目指すのは、「知」を言語的束縛から解放し、身体化すること、あるいは知の特権性や専門性を否定し、知識人・有識者なる存在を殲滅すること、あるいは文化的序列や価値観の転覆を図り、新たな「生の技法」を建設すること、などなどです。念のため、テーマの文言から想起される「芸術社会学」などには全く関心はありません。アートと社会学の「境界」はそもそも僕には見えないのです。

むしろ、地域や社会、そして現実にある諸々の社会制度、そこに丸ごと飛び出して行く「アート・プロジェクト」のようなものを考えてください。「社会プロジェクト」として、ある企画を立案し、具体化する、そのプロセスをゼミ活動の本体にします。社会／学／的／主題となるインスタレーションやビデオ、パフォーマンス、あるいは、アート様式の社会運動をセットアップする。あるいは、社会学はアートになるのか？ 徹底的に主観的な社会学とは？ 科学言語を使わない社会学の論文とは？ 他者について全く語らない社会学理論とは？ 社会学の作品はギャラリーに展示して売れるか？ などなど。